

# 生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 65

## 今月のテーマ

## 新社会人へのメッセージ (公的制度と保険加入)

これまで公的年金と公的医療保険の内容を解説してきたが、少しは身近なものとして理解していただけたであろうか…。給料から毎月引かれているだけで、なんの恩恵もないものと思われるのであれば、実に虚しい。本来であれば、加入の段階で説明などがあってしかるべきなのであるが、初月給から問答無用で当たり前のごとく引去りがされている。国民の義務であり、当然といえば当然であるが、お金を払っている側に言わせると、これは実にけしからんことだ。

近年、契約の際には重要事項の説明と称して、やたらと細かい説明をしなければならないし、また説明を受けなければならない。なのに、国は国民に対して、とりわけ新規加入の新社会人に対してはなおさらのことだが、重要事項の説明義務を果たしていないのではないだろうか…!?

払うだけ払って、その有用性や効果が理解されず、生活設計に生かされていないとすれば実に由々しきことだ。払ったものを返せと言える性格のものではないが、せめて加入者としてもつ当然の権利が理解され、生活設計に反映させることで恩恵を得たいものだ。新社会人になり、自身の生活を防衛するため、生命保険・損害保険への加入を考えている方も少なくないはずだ。であれば、これまでの公的年金や健康保険の仕組みを踏まえ、保険設計を活かした賢い選択をして欲しいものだ。

先月号でも触れたが、情報を持つ者と持たない者との格差は無限大に広がってしまう。無限大に利益を拡大する者と、無限大に損失を発生させてしまう者。悲しいかな、現実だ。どちらを選ぶのかは、自身の手の中にある。

新社会人よ(旧社会人も)、情報に対して貪欲であれ。そして、自ら情報を発信することの出来る人間であって欲しい。優れた情報、価値ある情報、感動のある情報の周りには人が集まるようになる。人生の輝き自体が変わってくるはずだ。



社会はもとより、親も先輩社会人も責任ある情報提供者になりたいものである。及ばずながら吾輩も全面的な応援をしよう。

これまで自身を取り巻いていた様々なリスクや賠償責任に対しては、親の保護の下で守られてきた。しかし、新社会人になってからは、そうはいかない。健康保険も扶養親族から独立した被保険者となり、他の多くの部分も自前での調達が求められる。経済的にも自立が求められるし、知らないでは済まされないことが多い。自立が求められる新社会人に対しての情報提供を、保護者や学校や社会が義務や責任として位置づけなければならないと思うのだが…!?

車を運転するために、自動車学校に通い、道路交通法などの関係法令を学び、運転操作における技術を身に付け、仮免許を取得し、公道での実地訓練を行い、国家試験に合格して晴れて運転免許の取得と相成る。そして、自動車を購入し運転するには任意保険への加入が必要な事くらいは教えられ、知っているであろうからまだ良い。しかし、社会という公道に出て世の中を渡り、生きて行くための術は残念ながら充分ではない。それに対して、今の若い者はなどと批判するのは本末転倒ではないのか…。新社会人にはある意味、社会を生きるための関係法令や公的健康保険も、国民・厚生年金保険の必要不可欠な情報も充分でないまま、無免許で社会の運転をしているようなものだ。

### 新社会人への情報提供と保険加入



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)  
株式会社トータルライフサポート代表取締役  
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー  
・1級ファイナンシャルプランニング技能士  
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師  
・住宅ローンアドバイザー  
・金融広報アドバイザー

## 保険と暮らしの相談センター

### ~ 今月の無料相談会・重点テーマ ~ 生命保険の賢い加入方法!!

- 加入している保険が本当に良いのか分からない方!
- 生命保険の更新時期が近い方!
- 万一の場合の生活費が心配な方!
- お子様の教育費が心配な方!

**相談料は無料!!**  
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社  
total life support 募集代理店 トータルライフサポート  
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22  
● 営業時間: 9:30~19:00 ● 定休日: 水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでもご覧いただけます。

● **新社会人のリスクと保険加入を考える**

自立した社会人は、身辺を取り巻くリスクに備えた保険への加入が当然に必要となる。しかし、実際の保険加入の必要性は、年齢や職業、生活環境などによって異なるので、簡単に定義づけられるものではないが、ここでは想定される最低限の保険を取り上げることしよう。

その前に、いまさらながら保険ってなんなのか!? 日常に当たり前のよう存在しているにも拘らず、その必要性への認識は薄いのかも知れない。自動車保険の必要性くらいは、何となく感じられるのかもしれないが…。しかし、それさえ入っていない人がいるのも現実だ。

新社会人にとっての保険は、社会保険（健康保険・年金保険等）と同様に、良く解らないままに保険料としての負担感が先に立っているのかもしれない。しかし、私たちの周りを取り巻いている様々なリスクの重大性の認識と、保険加入の必要性は避けて通れないほど重要と言ってよい。リスクの存在に気付かないまま、事故が発生し、それに対する手当（保険加入など）がされていないければ、場合によっては将来の夢や希望ばかりか、人生そのものを破壊してしまいかねない。

山林を現場とする林業者などは、スズメバチに刺されるリスクを想定し、毒の吸出しやステロイド剤の応急用のキットを持って入るそうだ。蜂に刺されるといふリスクに対しては、何とか回避をしたいものだが、山中での作業では完全な回避は難しい。その対策をとらなければならぬが、まずは刺されないために網をかぶるなどの予防の措置を取り、仮に発生したとしてもそのダメージの軽減を図るための毒の吸出しを用い、ステロイド剤などを使用する。リスクの完全回避ができない以上、その後に予想されるダメージは、入院や通院、最悪の場合死に至ることさえある。最終的に本人はもとより、会社や家族には経済的なリスクが発生することになってしまふ。経済的なリスクに対する最終的な手当てとして登場するのが、保険であり損失を移

転（保険）させるものだ。

● **主なリスクと保険活用**

前段でも説明したように、それぞれの職業や生活環境によってリスクの態様は異なるが、主なリスクを次の表に挙げてみた。これらは、何事も起こらない中では気付かないものが殆どで、発生した段階になって初めて事の重大さに気づくことになる。だからこそ、先輩社会人や親兄弟、はたまた学校や会社は新社会人に対し、必要な情報を届けなければならぬ義務と責任がある。社会人になったからと言って、自ら保険に入りたいという自然発生的な欲求は起きてこないのだ。もし、殆どのリスクに対しての対策が出来る方がいるとすれば、あなたは偉い」と褒めてあげたい。

リスク	保険種目
日常生活における、第三者に対する身体・財物への賠償責任	個人賠償責任保険
仕事や趣味、スポーツ中での怪我による死亡・障害・入院・通院	傷害保険
病気やケガによる入院や手術・先進医療などの医療費の負担	医療保険
大家さんに対して、法律上の損害賠償責任を負った場合の損害賠償金	借家人賠償責任保険
保有する建物・家財に対する、火災や自然災害等による損失	火災保険（建物・家財）
車を運転・保有に関する、第三者に対する身体・財物に対する損害賠償責任と搭乗者のケガ、車両自体の損失など	自動車保険

表中のリスクは、絶対に必要かという必ずしもそうではない。リスクの大小や優先順位を考えながら判断してほしい。予想されるリスクが自身の所有する資産で許容できるくらいのキヤパシティがあり、その後の生活にも影響がないのであれば保険への加入は必要がないとも言える。給料がまだ低くて保険どころではない、という声が聞こえてきそうだが、所得が低く貯蓄も多くないからこそ、生活の防衛策としての保険活用が必要とも言える。

● **健康保険を踏まえた医療保険（生命保険）への加入**

前号までに健康保険や年金保険の解説をしてきたが、これまでの内容を踏まえ、実際の保険加入などに、どう活かすかを考えてみようということでの記事を書き始めたが、前段が長すぎた。個々の部分的な具体的な解説の余白が無くなってきた。何とも中途半端になってしまふので、詳細は来月に持ち越ししたいが、これまでの健康保険の役割・守備範囲を考えると、予想されるリスクに対する備えの全てを医療保険に頼らなくとも良いということだ。生命保険・医療保険の加入を考えている方にとっては、これまでの知識がいよいよ保険加入にリンクすることになる。過大な保険、無駄な保険料を負担しないためにも、しっかりと学ぼうではないか。また、既に入っている皆様にとっては、改めて内容をチェックし、見直しや節約をすることにもつながる。では、来月に。

来月号は、健康保険（公的医療保険）の具体的な役割と、今後の生命保険の加入や見直しへの活かし方を解説することしよう。

